

2016年 百里初午祭 アピール (案)

今年は戦後71年、被爆71年の年を迎えます。平和を願う2016年初午祭参加した私たちは、年明けの最初に平和への思いを表明します。

戦後平和のうちに開拓が始まった百里原に、1956年5月、航空自衛隊の基地設置計画が発表され、本格的な基地反対の闘いが開始されました。58年には百里裁判、64年に「百里基地反対同盟」が再建され、78年には「百里基地反対連絡協議会（百里連協）」が結成され現在に至っています。

今年は百里基地反対闘争60年目になります。また平和を願い、基地撤去を願う仲間が集まる「百里初午祭」は、66年に第1回が開催され、以後毎年恒例行事として今回61回目を迎えました。

安倍政権のもとで、「防衛予算」は5兆円を超え、歯止めのない軍拡を進め、「戦争する国づくり」に邁進しています。その中心が他国の戦争に参戦する「集団的自衛権の行使」であり、これらの「戦争法」を昨年9月に強行採決を行いました。

さらに安倍首相は国会答弁で、「改憲はどの条項を改正すべきか」という現実的段階に移ってきたと発言。「緊急事態条項」の新設にも言及しています。

さらに戦力の不保持を宣言した憲法9条2項について「7割の憲法学者が自衛隊について憲法違反の疑いを持っている状況をなくすべき」として、7月の参議院選挙の公約にすると発言しています。これこそ私たちにとって緊急事態です。

沖縄では、県民が「辺野古移設NO!」「普天基地の無条件撤去」の意思を示しました。しかし安倍政権は沖縄県民の意思を無視し、辺野古新基地建設にまい進しています。民主主義を真っ向から否定する安倍政権のこの行為は、沖縄だけでなく日本全体の民主主義の問題であるところに危険の本質があります。

さて、百里基地ではF15戦闘機が九州に移動し、そのあとベトナム戦争で使われた古い型の戦闘機F4ファントム部隊が中心になっています。

しかし今後は最新鋭戦闘機であるF35部隊の配備や、オスプレイの横田基地配備に伴い、オスプレイの飛来する可能性もあり、反基地闘争を強めなければなりません。

百里初午祭に集う私たちは、国民の声を無視して「戦争する国づくり」に邁進する安倍政権を、多くの人たちと連帯した力で追い詰めるため、「戦争法廃止2000万署名」を成功させるなど、草の根の取り組みを地域から全県に運動を広げ進めます。

以上アピールします。

2016年2月11日

「百里初午祭」参加者一同